

平成26年度佐賀県公立小中学校事務長会総会並びに研修会

5月16日(金)メートプラザ佐賀において、開催された研修会ならびに総会の模様をお知らせします

○古川会長 挨拶

本日は大変お忙しい中、佐賀県公立小中学校事務長会で、池田英雄 県教育長様に講演願えることを名誉に思います。

佐賀県の共同実施は他県に先駆け全県統一して展開しており、それを引っ張るのが統括事務長及び事務長であることを自覚し、事務長職にある限り、初心の覚悟を忘れずに共同実施をマネジメントしていきましょう。



講演「小中学校の事務長に期待するもの」

佐賀県教育委員会 教育長 池田英雄 様



講演の冒頭では、気楽に聞けるような雰囲気を作る為に上着を脱ぎ、自己紹介を兼ねての楽しいエピソードから始められました。キーワードをいくつか挙げると、「大学は出たけどエリート校？出身でもない」「吉田拓郎とギターとコーラホームサイズ3本」「もうなくなった英数学館」「座右の銘の一つが『継続は力なり』」など、事務長会のメンバーと同世代の共感を得ることができ、会場が笑い声で和みました。

和んだところで、県庁に入ってからのご自身の苦勞された経験から、「重要なのは良好な人間関係である。最初が肝心であるので、事務長は今の若い事務職員のことをしっかり見てやって欲しい」と、一つのメッセージを会場の私たちに投げかけられ、本題へと話が続きました。以下、概要です。

踏まえるべき基本姿勢として、①「コンプライアンスの徹底」法制度を基本に、教育公務員とは、学校とは、自分は何をなすべきかを判断して欲しい。②「スピード感」知事部局と学校の違いはここ。管理職には、特に求められる。事務長は管理職である。③「危機管理」いままでは基本的に業務管理能力、財務管理能力、人事管理能力が求められたが、新たに危機管理能力(情報管理能力、マスコミ対応能力、情報公開能力等)が求められる。ここを誤ると大変なことになる。事務長はしっかり身に付けるために、常日頃からシミュレーションしておいて欲しい。先日の福岡県春日市での事件など、どうすればいいか……

学校経営のあり方として、個人能力の向上はもちろんのことながら、「組織としての力をつける」ことを心がけて欲しい。従来の管理的な学校経営ではなく、組織マネジメント型の学校経営を行うよう心がけることが必要。法令や財務に詳しい事務長の果たす役割は大きく、事務長は管理職であることを自覚し、遠慮せずに校長・教頭へ進言できるようになって欲しい。そして、事務職員が積極的に学校経営に参画する基礎を作って欲しい。

今までの話のまとめとして、以下のことを学校運営支援室長でもある事務長に期待する。

- ① 校長を支え、積極的に学校経営に参画していただきたい。
- ② 共同実施で業務の効率化・標準化・事務職員の資質向上・教育職員の業務軽減を図っていただきたい。
- ③ 共同実施をおおいに活かして、若手の学校事務職員を育てていただきたい。
- ④ 一元化採用により、若手は10年の間に学校を含め多様な部署を異動する。その職員が10年後に学校を選択するような環境づくりをしていただきたい。

最後に、県教育委員会と学校は、風通しのいい関係となるように願っている。「いい学校を作る為に事務長の協力をお願いしたい」と締められました。

講演「事務長の組織マネジメント-学校組織の変化から考える」

佐賀大学文化教育学部 准教授 川上泰彦 様

学校組織は、ここ10年から15年の間に激変している。児童・生徒数や教諭が減少している一方、他の職種が増え、雇用形態も勤務形態も多様化してきている。組織も鍋蓋型からピラミッド型になったが、全員が一斉に同じ議題について議論したりすることが時間的に困難となっている。同じ職場で働く者でも勤務条件・勤務時間等が異なる職員が増え、これらの職員を調整するためのこれまでに無かった「調整役」が必要となり、この業務が正規職員の多忙化に拍車をかけている。



多様な職員が同じ仲間だけでグループを作ると、他者を区別して、同じ職場であってもコミュニケーションが困難になる面がある。社会・家族構造の変化により、職員が仕事に費やすことのできる時間にも変化がある。

これらの多様な職員が働く現場では「つなぎ方」をどうするかという組織マネジメントが重要になっている。多様化し、異なる価値観等を持った者たちの組織は、縦の命令系統である階層関係だけに頼るのではなく、横のつながりのネットワーク関係を大切にすることが必要である。

今からの組織マネジメントは「違いをつなぐ」ことが重要となってくる。多様化する組織の中で、事務長と事務職員は「違いをつなぐことのできる」重要な立ち位置にいる。

また、事務長の役割は学校内だけではなく、学校同士及び事務職員同士のネットワークをつなぐことである。そして、つなぐことのできる事務職員を育てることが重要な役割であり、「ネットワークをつなぐ」という役割を事務長一人だけが占めてしまわず、多くの事務職員がつなぐことのできる組織を作り上げなければならない。

~~~~~

両講演ともに「組織マネジメント力をつける」ことや、「若手を育て、つながった健全な組織を作り上げる」ことなど、共通したメッセージが何度も投げかけられました。

今日のお二人からの貴重なメッセージがギュッと詰まった講演をきちんと受け止め、消化し、実践していくことが私たち42名の責務であると確認し、全員が気を引き締めることができました。

~~~~~

平成26年度佐賀県公立小中学校事務長会総会

研修会に続いて、「平成26年度佐賀県公立小中学校事務長会総会」を開催しました。平成23年度の最後に事務長会が誕生し、25年度より統括事務長制度が導入されて初めての活動が終了しました。25年度の役員により、以下のような活動報告がなされました。総会の概略を報告します。

○25年度会長挨拶○新任統括事務長・新任事務長紹介と挨拶、議長選出…国見中の野田事務長が選任されました

○1号議案（25年度事業報告）及び2号議案（25年度決算及び監査報告）…諸井前事務局長により「事務長会の活動報告」があり、中でも7月に開催した「人事の評価と育成」、10月に開催した「市町教育委員会事務局職員との合同研修会(権限移譲等について)」、1月の「人を活かす組織マネジメント」については画期的な企画であり、効果も大であった（武雄市においては、大きく改革が進んでいる）ことと、福岡での研究大会への派遣についても有意義であったと報告がありました。決算及び監査報告も全会一致で承認されました。

○3号議案（会則改正）・・・会則文言修正で、「地区」を「地域」に修正し、県の文書等と統一できました。

○4号議案（役員改正）・・・古川会長・山田副会長を午前中の新旧理事会で役員案とし、総会において選出されました。会長指名によるその他の事務局長等の役員も総会で承認を受けました。

H26年度の主な役員は、会長 古川 治(城南中統括事務長) 副会長 山田 健二(大町小統括事務長)です。

○5号議案（事業計画）及び6号議案（予算案）・・・職能組織として、公立小中学校の事務の質を向上させるための計画（より具体的な計画については、今後練り上げ、お知らせする）と、それに伴う予算案を提案しました。事業計画に対して、人事交流や研修計画等に関する議論を交わし、全会一致で承認されました。